

令和3年土石流調査情報（桜島地域） 第9報

（通算第256号）

- 桜島の噴火による令和3年7月の降灰量は、桜島の火山活動が活発になった平成21年～令和2年における7月の降灰量の平均と比較して約0.04倍となっています。
- 桜島における平成21年～令和2年の8月における土石流の発生回数の平均は4.1回ですが、令和3年の8月は6回発生しています。

1 桜島の噴火による降灰の状況

令和3年7月1日から令和3年7月31日までの約1ヶ月の桜島18カ所の降灰量観測所における最大の降灰量は、有村川（No.18）で0.22kg/m²でした。また、降灰量の18観測所の7月の降灰量は、平成21年～令和2年における7月の降灰量の平均と比較し約0.04倍となっています。

資料-1 桜島の降灰量図

資料-2 降灰状況

資料-3 平成21年～令和2年7月における降灰量の平均及び令和3年7月の降灰量比較

2 土石流の発生状況

令和3年8月1日～8月31日の間、桜島の11河川において8月8日に野尻川で1回、8月12日に野尻川で1回、黒神川で1回、8月16日に持木川で1回、第一古里川で1回、有村川で1回土石流が発生しました。

図-1 桜島の直轄河川位置図（全11河川）

資料-4 令和2年及び令和3年（8月）の土石流発生回数比較

資料-5 各溪流における土石流発生状況（令和2年1月～令和3年8月）

資料-6 年間（暦年）・河川別土石流発生回数

3 土石流災害の危険性

桜島における土石流の発生回数は、平成28年は25回、平成29年は17回と爆発・噴火回数が活発な時期に比べ若干少なくなりましたが、平成30年は45回、令和元年は34回、令和2年は32回と多い状況にあります。

また、平成28年に153回まで減少した噴火・爆発回数は、平成29年には406回、平成30年は479回、令和元年は393回、令和2年は432回と多い状況です。令和3年は8月末時点で129回となっており、少量の雨で土石流が発生する状況は継続しています。

鹿児島地方気象台及び鹿児島県より土砂災害警戒情報が発表されるような大雨が降るような状況の場合には、土石流やがけ崩れによる被害が発生する恐れがありますので今後も、土砂災害警戒区域に指定されている地域では十分警戒が必要です。

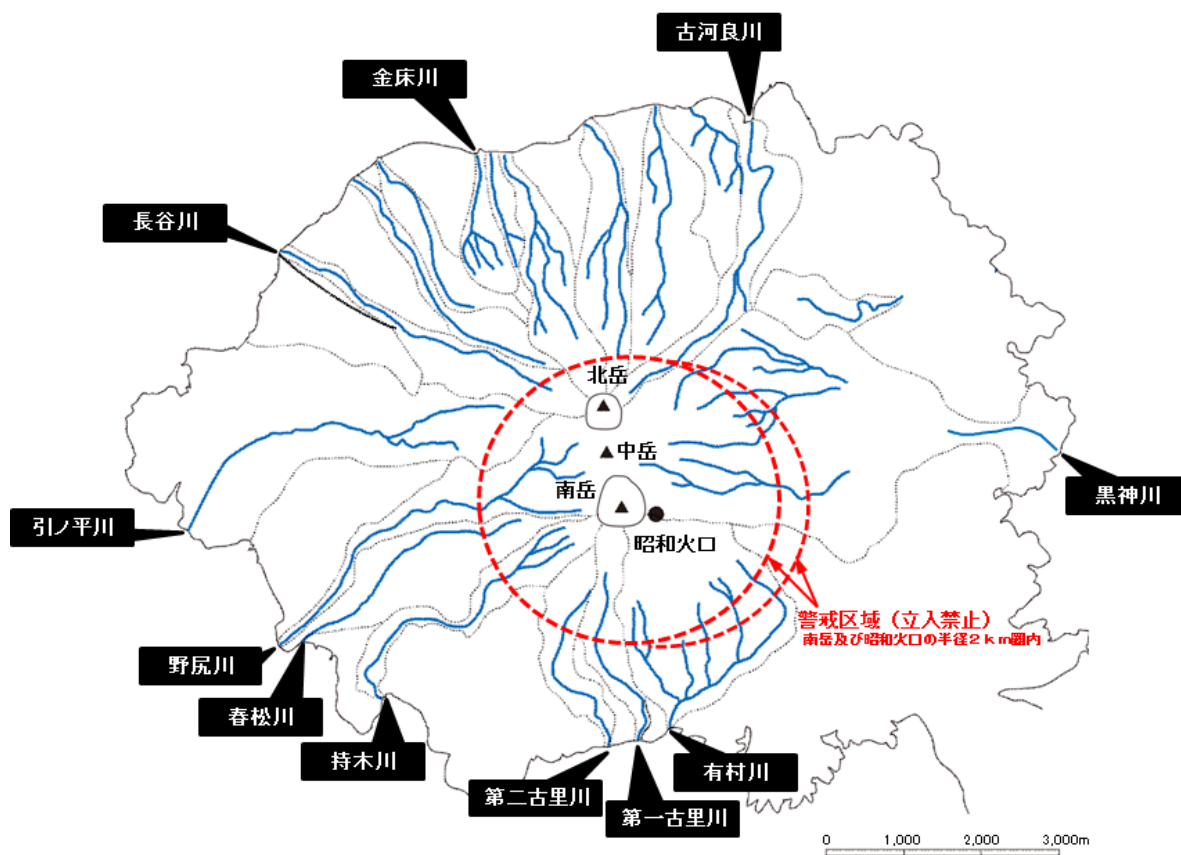
資料－7 年間（暦年）・土石流発生と噴火回数の関係

資料－8 土石流発生直前の降水量（平成21年3月1日～令和3年8月31日）

4 今後の対応

九州地方整備局大隅河川国道事務所では、今後も桜島の噴火に伴う土石流等の調査を継続的に行い、適宜、情報提供させていただきます。

※この情報は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第31条第2項に基づく情報の随時提供です。



図－1 桜島の直轄河川位置図（全11河川）